

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象 3年生

- ・教師の話や発問に対して、挙手やつぶやきなどの反応を返す児童が多い集団である。一方で、他者の意見をもとに考えを深めたり、根拠をもって発言したりすることには課題が見られる。
- ・校内研修の手立ての一環として、「単元を通して身に付けたい力・なりたい自分」を明示した「単元計画表」を継続的に授業で使用している。
- ・過疎地域のため地域とのつながりは比較的強く、授業日の翌週には地域防災訓練が予定されている。

2. 単元名 「火事からくらしを守る」（全8時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・消防署とその関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解することができる。・見学や調査をしたり、地図などの資料で調べたりして、まとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・消防施設や設備の配置、緊急時への備えや対応に着目して、関係機関や地域の人々の活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

4. 本時の目標（1／9時）

くらしの安全を守る人々に感謝を伝えたいと感じた子供たちが、火事が起きた時の人々の働きを表に整理することを通して、分かることと分からないことを把握し、単元の学習に対する見通しをもつ。

5. 授業展開【**本時**】・ 単元】

解決したい課題や問い

- 「火事からわたしたちのくらしを守ってくれている人たちに、感しゃの気持ちをつたえよう。」
- ・火事が起きた時、だれが、どのようなはたらきをしているのだろう？

考えるための材料

- ①：火災発生時の映像
- ②：〇〇町（なければ〇〇地域）の火災発生件数と死傷者数の推移
- ③：感謝状の例（だれの、どのような活動に対してかが明示されているもの）
- ④：資料「火事が起きたときの様子」（教科書）

想定される活動

- ①：・迫力があってこわいね。 ・住んでいた人は、どうなってしまったのかな…。
- ②：・火災発生件数は少しずつ減っているよ。 ・死傷者は火災の数にくらべて少ないんだね。
- ③：・まず感謝を伝える相手の名前を書いて、次に内容を書くといいね。
- ④：・消防士さんだけではなく、いろいろな制服を着た人が働いているよ。
 - ・車の上に赤いライトをつけた車がたくさんあるね。
 - ・テレビ局の車があるよ。はじめに見た映像は、こういう人たちが撮影しているんだね。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の場面

資料「火事が起きた時の様子」の読み取り

対話の方法

ペアを基本とするが、周りの誰と相談してもよい。時間については、まず5分間設定し、その後は実態に応じて設定する。

対話や思考のプロセス

- ・自分は、テレビ局の車とリポーターを見つけたよ。
- ・〇〇さんの言う通り、右上の学校では子どもがグラウンドに避難しているね。
- ・それぞれが見つけたことに○をつけていって、○がついていないところを一緒に見ていこうよ。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

火事が起きたとき、

- ・消防士が、火が出ているところに行って火を消している。
- ・けいさつの人が、交通整理をしている。 ・テレビ局が、火事があったことを伝えている。
- ・けいさつ以外にも交通整理をしている人がいたけど、誰かは分からないから、調べたい。
- ・ガス、電気と書かれた車もいるが、何をするのは分からないから、これから学習したい。